明治六年第一月

新貨三錢

郵便報知新聞

第卅一號

驛遞寮檢

東京横山町三丁目
太田金右衛門

406
1

凡例

遠近の人民互ひに性情よく相通じ事理よく貫達するハ新聞紙に如くハなし故に西洋諸國苟も文明の名あるの地にハ必ず新聞紙局を設けありて國内國外を論ぜず凡百の事務を網羅し併せて奇事異聞瑣話常談を采用し以て日々に刊し月に輯して傳布き依じて幾人の家に喩し戸ごとに説くの概あれバ國人甚だ之れを便とせざるハなし今吾が郵便の新報を刊行するも廣く遠近の事を載せ大ひに内外の情を通じ善く古今の變を知らしめ以て世に裨益あらん事を欲するなり善く観るの人此を見て天下の寒を知るべけれバ此小冊子を忽せにせず市當今ある事情の一斑を窺ふべし

郵便報知新聞第卅一號　明治六癸酉年第一月

〇元始祭式

孝明天皇遙拜式

神武天皇御即位日遙拜式

右別冊之通被仰出候条毎歳執行可致事

但明年ハ式書各地到着ノ日、本文日限ニ後レ候ハヽ更ニ日ヲ撰ミ可執行事

別冊

官幣、國幣社并府縣社

○元始祭式

一月三日宮中神殿ニ於テ賢所并八神、天神地祇御歴代皇霊ヲ御親祭在セラル是天日嗣ノ本始ヲ歳首ニ祀リ給フ義ナルヲ以テ之ヲ元始祭ト稱ス地方ニ於テモ此ノ大典ヲ遵奉シ官社以下祭祀ヲ修メ官員及ビ人民悉ク参拝スベシ

早旦神官神殿ヲ装飾ス　午前第八時神官ノ長（府縣社ハ祠官下同）幄舎ニ着ク　次神官ノ長、殿ニ昇リ御扉ヲ開ク　此間奏樂（神官奏樂ヲ心得ザレバ略スルモ妨ナシ下同ジ）　次神官ノ次官以下（府縣社ハ祠官モ同ジ）神饌ヲ傳供ス

此間奏樂　次神官ノ長祝詞ヲ奏ス（再拝）

掛巻モ恐キ

某神社乃大前爾宮司位苗名恐美恐美母白久左今年一月

乃今日乃年始乃祭爾

天皇乃大朝廷豆爾諸乃皇神等手齋支祭良世給布是以

大前手慎敬比御食御酒鰭乃廣物鰭乃狹物奥津藻菜

邊津藻菜甘菜辛菜爾至留麻豆置足豆波志奉留事手平良氣

久聞食豆大御代手常磐爾堅磐爾守幸倍波給比敷坐世留

國内午平久良氣治給比仕奉留人等公民爾至留麻豆漏留

事無久守利幸倍給比立榮米志給倍止白須事手聞食世止恐

美恐美母白須
次神官ノ長、玉串ヲ執テ拝礼　次、次官府縣社ハ祠掌以下拝礼、
次、次官以下神饌ヲ撤ス
此間奏樂
次各退出
○神饌官幣國幣社九臺府縣社八臺　洗米　酒二瓶　餅　海魚　川
魚府縣社ハ之ヲ略ス　海菜　野菜　菓　塩水
郷村社
○元始祭式
早旦祠官神殿ヲ装飾ス　午前第八時祠官村社ハ祠掌奉仕ス以
下幄舎ニ着ク　次祠官殿ニ昇リ御扉ヲ開ク　次祠官
以下神饌ヲ傳供ス　次祠官祝詞ヲ奏ス再拝
掛巻母恐支
某神社乃大前爾祠官村社ハ祠掌苗名恐美恐美母白左久今年
乃一月乃今日乃年始乃祭爾大前乎慎敬比御食御酒
魚乎始豆種々乃物乎備奉留事乎平良久安良久聞食
豆仕奉留人等公民爾至留麻豆爾洩留事無久守幸波倍給比
立榮志米給倍止白須事乎聞食世止恐美恐美母白須
次祠官玉串ヲ執テ拝礼再拝拍手　次祠掌拝礼　次祠官以
下神饌ヲ撤ス　次祠官御扉ヲ閉ツ訖テ下殿シ幄舎ニ

従ス　次各退出

神饌六臺　洗米　酒　餅一重　海魚（川魚ヲ用ユルモ可ナリ）

野菜　塩　水

○孝明天皇御陵遥拝式

孝明天皇御例祭新暦一月二十三日相當ニ付上下一般遥拝スヘシ

府縣廰中清浄ノ地ヲ擇ミ山城ノ方ニ向ヒ新薦ヲ敷キ高机一脚ヲ置キ机上御玉串ヲ安ズベシ（玉串ハ榊ノ枝ニ白紙ノ四垂ヲ付）

拝辞　掛巻　毋恐支

孝明天皇乃大前手遥爾拝美奉良久白須

官員礼服着用シテ拝礼畢テ御玉串ヲ焼却スベシ

地方ハ郷村氏神々職ヘ遥拝式申渡シ氏子ノ者ヲシテ山城ノ方ニ向ヒ遥拝セシムベシ

○神武天皇御陵遥拝式

神武天皇御即位紀元ノ日新暦一月二十九日相當ニ付毎歳御祭典御遥拝在セラル依テ御趣意ヲ遵奉シ上下一同遥拝スベシ

（敷設等孝明天皇ノ例ニ準ス）

拝辞　掛巻　毋恐支

神武天皇乃大前手遥爾拜美奉良久止白須

右之通御布令アリ

○柏崎縣より報知

管下頸城郡柿嵜駅住瀧沢彦三郎と云る者字飛山と云る同人所持の畑へ麥作に出しゝ畑中より古銅錢共計目方六貫餘を堀出せり依て縣廳より其處置を大藏省へ伺中なりと

○宮城縣より報知

管下亀ヶ岡山より名取郡長袋駅へ出るの小道嶮岨狭隘なりしを牛馬の往來成り難き場所なりしが縣下の商

中井新太郎等同志の者十四名申合せ此街道を修理せば牛馬の往來荷物運送の便なるのみならず羽州への里程其半を減じ大利益なれバ自費を以開拓いたし度段願濟相成已に十月下旬出來せり

○英國龍動新聞

英國朝廷へ向ケ出発セし日本大使一行ヲ乘セ「キウナルド、スチーメル」ヲリンプス」船去ル土曜日ニ「ニウヨルク」ヨリ「メルセイ」河ニ到着セリ朝第十一字ニ英政府ヨリ彼ノ河口邊ニテ右「ヲリンプス」船ヲ迎ンガ為メ二艘小滊船ヲ出セシニ第一字半ニ彼ノ「ヲリンプス」船ニ

出會ヒシカバ「ストルムキング」船ハ直チニ「ヲリンプス」船ノ側ニ乗寄セ特派全権大使岩倉其他大藏、外務、工部、戸籍、医院ノ夥伴ヲ其船ニ迎ヘ取リタリ又此大使ニ陪従セル外科医ハ「トクトロベルトジチスロヲン」ト稱シ愛倫「ロストレウエル」府ノ産ニシテ大使并其他陪従ノ者都合三十人ヲ「ストルムキング」船ニ迎ヘ入レ「リウエルフウル」府ヲ指シテ進ミシニ大凡四時頃ニ太子登岸場ニ到着セリ此所ニテ既ニ知府事ノ車（此馬車ハ格別ノ時ニ用フル）及自用ノ四輪車ハ大使等ヲ迎ンガ為メニ待受タリト云シカバ大使等ハ之ニ乗リテ速ニ北西旅館ニ到リ其所ニテ知府事ニ面會シ「ランチヲン」（朝餐午餐間ノ食事ヲ云）ノ饗應ヲ受ケ夫ヨリ倫敦府ヲ指テ五時ノ連車ニテ出立セリ政府ヨリ名代トシテ遣シタル「リウテナンドセー子ラル」官ノ「アレキサンドル」氏ハ「ストルムキング」船ニ乗行「ヲリンプス」船ヲ迎接シ賓客ヲ倫敦府ヘ同伴セリ一週ノ内ニハ大使ハ「リウエルプール」ニ赴キ貿易事務局ノ饗應ヲ受ルナラン

③群馬縣管下新聞賣弘所治田文次郎より報知

管下第十二大區下高尾村農本多國太郎妻某去申十一月十五日午後二字頃三男子を出生せり近邊見物人影

敷に其甲斐無して同十八日暁三孩とも死去せりと

○府下浅草吉野町割烹店八百屋善四郎配膳濫觴の説を博覧會事務局へ建言の大意

抑饗膳の事は大山祇大神天孫尊大神を饗し給ふに山野河海の珍味を以し之を盛るに七机を用ひらる七机とは飯餅生肉熟肉菜菓是なり之を我國配膳の濫觴にして後世源氏もの語枕の双紙などにも饗膳の事あり茶の湯會席など称ふる事は東山義政公をはじめ秀吉公も数寄に御名ありて相阿弥利休抔を用ひられ五本立七本立あり五本立とは五盤七本立とは七盤なり聚

楽行幸には九本立なりと言傳ふ又は五三と唱へて三とは三献なり五とは五献なり則初献煮雑皿に盛る添肴あり、二献あんちう添肴なり、三献羹、四献むしむぎ冷麦ぬる麦饂飩による、五献羊羹類、添肴あり

○郵便馬車會社河津祐威今般下総國境より磐城國福島夫より羽前國米沢迄物品運輸便利の為め馬車開行の儀出願せしに十月中許可相成り右に付道路修繕行程取調として社中國分某外数名此程出発せり

○諸兵隊稽古始之儀是迄正月八日ニ候処向後第一月四日ニ改定候但陸軍始メ之儀ハ従前之通候旨山縣陸

軍大輔殿ヨリ御達アリ

○神奈川住の岸田氏の來翰中に横濱に在留の英國人ロヘルトソン、ウルキー氏ハ是迄所持の日本号蒸氣船にて東京迄往復せし所の着場を相止め更に淺草邊へ往復の場所を開き度趣去申十一月廿四日、日本政府へ彼の國乃領事官願出し由右願を彼我人民の大利益に相成事なれば速に御許可あり度とそ云へり

○去申九月中臺灣国に於て琉球人を切害せし一件に付本月廿七日發艦副島外務卿を尋問として被遣たり

報知新聞第卅一號 終

今般郵便報知新聞刊行の旨趣ハ遠く隔る國々ハ物情を互に相通せしめ且ハ卑賤ある細大となく其事實各地へお知らしめんとも依て諸方ゟ友申寄行の賞罰暴徒の捕縛機械産物の新發明蠶絲織紡漆器陶器米穀等を初め諸品製造耕作の多寡豊凶震雷風雨水火の災難寒暖等其他の違ひ等まて少しも漏らさず事を詳にし筆記して斯の新聞紙上に載せて是を世に發兌し及び貴賤の差別なく遠く越して給はらんことを希ふ

一郵便報知新聞一冊價銭三錢每月五号宛出板

當時發兌号より先き廿冊分引受候者へ一割引

同四十冊分ハ一割半引

一ヶ年分引請の者へハ二割引

右之通割合を以て前金并郵便賃等請取次第發兌之節右場所を遠ひ郵便を以て御届可申候

發兌人 東京横山町三町目 太田金右衛門